

「2023 職場における腰痛予防宣言！」の事業報告(概要)

全国256施設が事業に取り組み、総勢7,308人の腰痛予防に貢献！



事業の趣旨

- ・我が国における業務上疾病の中では腰痛が最も多く、医療・介護職種を含む「保健衛生業」においても腰痛は80%以上にのぼり、予防的対策が急務である。
- ・本会では、理学療法士が自らの専門性を発揮し、全国の医療・介護現場の腰痛予防に貢献することを目的として、所属施設における腰痛予防に取り組む啓発事業を開始した。

I. 事業概要と達成施設数

全国900名以上の理学療法士が事業を運営

事業概要



今年度より “Champion stage”を新設

金メダル施設のうち希望確認のうえ、他施設からの腰痛予防活動要請に応じる窓口を本会ホームページに掲載し、所属施設外へ活動を拡大します。

○事業期間

- ・2023年10月2日～2024年2月29日

○事業対象

- ・約20,000施設（本会員所属施設）

○総参加者数

- ・7,308人

○運営に参加した理学療法士

- ・Mission2：991名 Mission3：660名

○認定施設数

- Champion Stage達成 51施設
- Mission3達成(金メダル) 100施設
- Mission2達成(銀メダル) 180施設
- Mission1達成(銅メダル) 256施設

II. 参加した職種：7,308人の内訳

延べ10職種以上の 医療・介護職が事業参加

○看護師	2,923人(最大312人/施設)	○介護助手	95人(最大25人/施設)
○介護士	1,299人(最大81人/施設)	○事務職	841人(最大78人/施設)
○医師	158人(最大43人/施設)	○作業療法士	456人(最大40人/施設)
○看護助手	405人(最大58人/施設)	○言語聴覚士	182人(最大32名/施設)
		○薬剤師	119人(最大14人/施設)
		○栄養士	101人(最大16人/施設)
		○その他	729人(最大144人/施設)

III. 参加者の声

事業参加による効果・影響

事前に腰痛アンケートを実施した後に腰痛予防講習会をおこなった。職員のほとんどが腰痛予防に対する意識が低かった中、ボディメカニクスを活用した方法の指導や、福祉用具の使用方法を研修し、身体的負担の軽減を実感してもらえた。



施設A



施設B

既往に腰痛を持っている職員も多くおり、事業所で腰痛について情報を共有し、改善策を立てることで、職員自身の安心感や働きやすさにつながったとの意見が聞かれた。

感想

腰痛ならびに痛みは、誰もが抱える問題であり、その問題を通して職員と様々な意見交換やコミュニケーションが図れ、職場の雰囲気や働きやすさにつながったのではないかと感じた。



理学療法士

認定証の贈呈があり、自分たちの活動が認められる達成感があった。



理学療法士

理学療法士の専門性を発揮し、労働者の腰痛に関する悩みに応えることは社会において意義のあることだと感じた。



理学療法士

IV. 事業総括と今後の展望

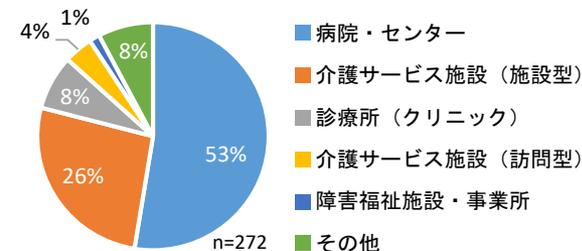
腰痛予防の取り組みの更なる展開へ！

- ・今年度は、全国256施設における900人以上の理学療法士が運営に参加し、看護師や介護士を中心とした7,308人の腰痛予防に寄与する取り組みが実施された。
- ・前年度と比較して、認定施設：金71施設/銀144施設→金100施設/銀180施設、参加者数（理学療法士を除く）：6,472名→7,308名と全国的により多くの腰痛予防活動が実施された。
- ・本事業を通じて、医療・介護・福祉従事者の腰痛予防に取り組み、更に今後は理学療法士の所属しない施設や多種多様な労働者の腰痛予防を含む安全衛生に貢献していく。

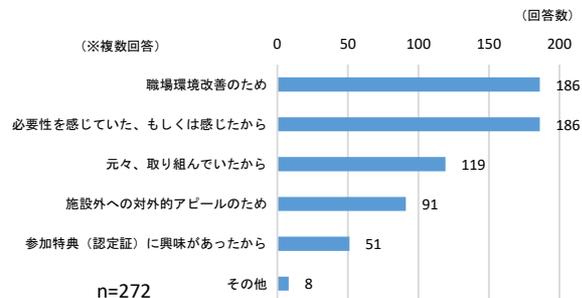


「2023 職場における腰痛予防宣言！」の事業報告(集計一覧)

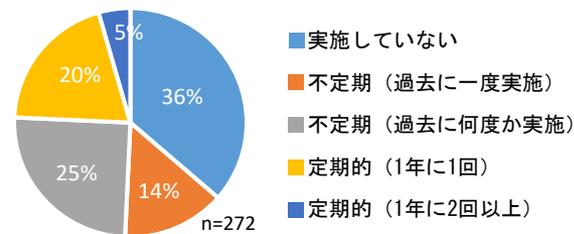
○施設形態



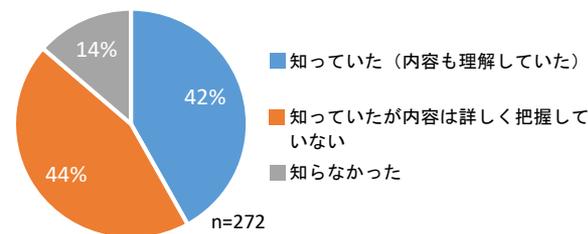
○事業に参加したきっかけ、動機



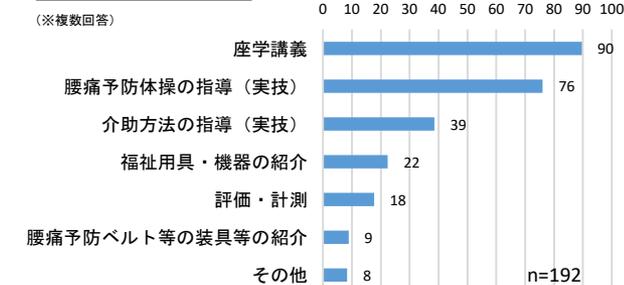
○過去3年の理学療法士が携わる腰痛予防対策の実施状況



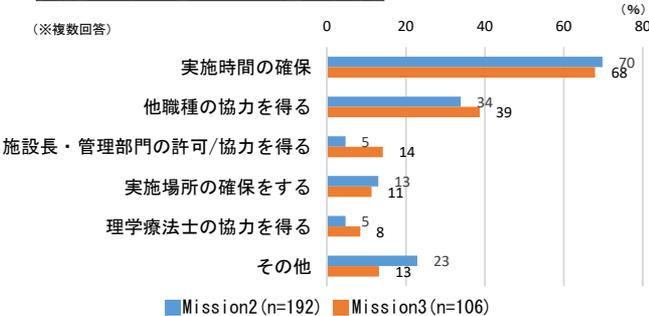
○実施以前から腰痛予防対策指針を知っていたか



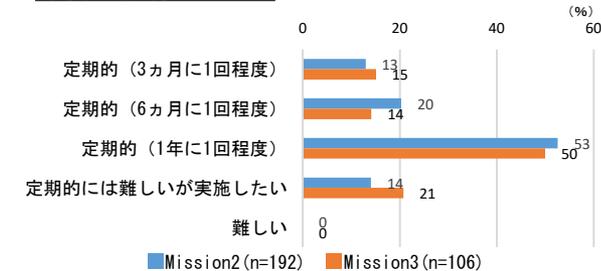
○講習会の実施方法



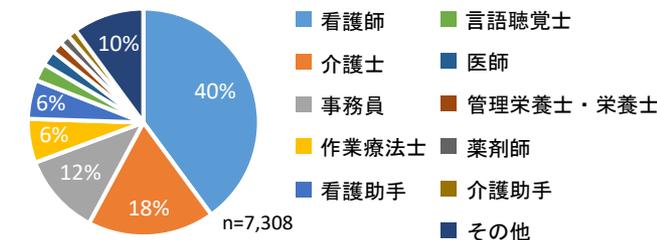
○実施の際に感じた課題・困難



○今後の継続について



○参加職種と割合



○都道府県別

